

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

事業名 障がい者スポーツ大会開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111(内 2687)

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,071 千円 (前年度予算額：8,651 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,651	4,325	0	0	0	0	0	0	4,326
要求額	8,071	4,035	0	0	0	0	0	0	4,036
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

障がい者の社会参加の推進とスポーツ振興を目指し、身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいを対象とした岐阜県障がい者スポーツ大会を開催する。また、スポーツに関する技術等の習得を希望する方を対象に、障がい者スポーツ教室を開催するとともに、裾野拡大の取組みを支える障がい者スポーツ指導員養成を進める必要がある。

(2) 事業内容

①岐阜県障がい者スポーツ大会の開催

<地区別体育大会>

<春大会 (全国障害者スポーツ大会の個人競技予選会) >

(身体・知的・精神)卓球

(身体・知的)陸上、水泳、フライングディスク

(身体)アーチェリー

(知的)ボウリング

<春大会 (全国障害者スポーツ大会の個人競技大会) >

(身体)ボッチャ

※ボッチャについては、平成33年度より全国障害者スポーツ大会正式

種目として導入されることから競技の普及を目指し大会を実施
＜春大会（北信越・東海ブロック大会の団体競技予選会）＞

（身体・知的・精神）バレーボール

（身体）車椅子バスケットボール、グランドソフトボール

（知的）バスケットボール、ソフトボール、フットベースボール、サッカー

※北信越・東海ブロック大会は、全国障害者スポーツ大会の予選会

＜秋大会（ドリームスポーツ大会）＞

陸上、フライングディスク、大玉転がし、綱引き、玉入れ、ふれあいラリー

※障がいの程度にかかわらず、全ての身体障がい・知的障がい、精神障がい者が参加できるレクリエーション中心の大会

②障がい者スポーツ教室の開催

開催競技及び地域を限定せず、希望に応じて県内各所を巡回して行う。

③障がい者スポーツ指導員養成事業

障がい者スポーツの裾野拡大を支える人材の育成、活用のため、初級障がい者スポーツ指導員の養成講習会を実施する。

（３）県負担・補助率の考え方

国庫 1/2 県費 1/2 【地域生活支援事業】

（４）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細	
委託料	8,071	障がい者スポーツ大会	3,459 千円
		障がい者スポーツ指導員養成	366 千円
		障がい者スポーツ教室	1,833 千円
		人件費	2,413 千円
合計	8,071		

決定額の考え方

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

清流の国ぎふスポーツ推進計画において、より多くの方が参加していただける障がい者スポーツ大会の実施に関して記載。

岐阜県障がい者総合支援プラン（スポーツによる障がい者の社会参加の促進）

事業評価調書

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 重度障がい者等、スポーツへの参加が困難な者であっても、スポーツの観戦、文化活動への参加等誰もが参加可能なイベントを開催する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
春大会参加者数	0 (H13)	1,168 (H30)	1,846 (R1)	- (R2)	1,700 (R3)	108.6%
秋大会参加者数	0 (H13)	1,103 (H30)	1,465 (R1)	- (R2)	1,300 (R3)	112.7%
実施教室数(延)	0 (H13)	12 (H30)	31 (R1)	- (R2)	35 (R3)	88.6%
参加者数(延)	0 (H13)	228 (H30)	1,206 (R1)	- (R2)	900 (R3)	134%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容(会議の開催、研修の参加人数等)

<地区別体育大会>
 令和元年9月28日～11月3日 (参加者数1,107人)

<春大会(個人競技・団体競技)>
 令和元年4月13日～6月30日 (参加者数1,846人)

<秋大会(ドリームスポーツ大会)>
 令和元年11月10日 (参加者数1,465人)

<障がい者スポーツ教室>
 全国障害者スポーツ大会競技種目を中心に、希望に応じて県内各地でスポーツ体験教室を実施した。(実施回数31回、参加者数1,206人)

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
障がい者のスポーツ参加の機会が増え、社会参加が促進された。
また、「ぎふ清流大会」での取組を継続して実施することができている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	各事業は次のような役割をもっており、それぞれ継続して運営を支援する必要がある。 <ul style="list-style-type: none">・地区別体育大会：県内各地での障がい者スポーツの裾野拡大・春大会：全国障害者スポーツ大会及び、北信越・東海ブロック大会への予選、競技力向上・秋大会：開会式典の内容を拡充するなど、障がいの有無に関わらず誰もが参加できるスポーツを中心としたイベントの開催・スポーツ教室：県内全域で障がい者スポーツを普及し、障がい者の社会参加を推進する
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	秋大会の内容を拡充することで、比較的重度の障がい者が参加する障がいの程度、有無に関わらず、誰もが参加できるイベントとなり、障がい者の社会参加推進に資するものとする。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	参加者が比較的多い既存の事業を拡大することにより、より一層の参加を得ることが期待できる。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
「ぎふ清流大会（第13回全国障害者スポーツ大会）」で高まった障がい者スポーツへの関心を一過性のものとせず、スポーツを行う者だけでなく、誰もが参加できるイベントを実施する必要がある。

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>障がい者の社会参加の推進及びスポーツ振興のために、継続的に実施する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	